

自滅（嫉妬） 神話

彼等の自由にならぬものは何ひとつとして無く  
求めれば必ずそれをとらえ  
棄て去れば必ずそれを失い

空しきは力よ、<sup>よるべ</sup>寄方ない・・・

勝手にしろと誰もが言っていたはず

貧しき者は<sup>さいわ</sup>幸福いなり

平然と言つてのける  
「心の豊かさを」などと  
そして祭り上げられた者達は  
哀れにも神として温もりの中より放逐され

祭壇の上で己の知と愛を呪い  
全人類が豊饒の下に苦しみ呻くを願い  
群集は恐怖に蒼ざめて口々に叫ぶ  
「まやかしの魂だ、焼き殺せ」と  
哀れ、神はいけにえと転落して火だるまに  
そして群集はこぞって神位を求め  
祭り上げられてはまた火だるまに  
止まることなき自滅の連続に

天を<sup>あかがね</sup>銅色に不気味に染める

(1985.1.3)